

やはば

議会だよ

235

2026.1.23

岩手県
矢巾町議会



町民と語る議会フォーラム
(関連記事…P18～19)

ズバリ町政を問う 一般質問12議員

多岐にわたる活発な議論を展開… 4～16

特集「矢巾町議会改革」

町民と語る議会フォーラム開催… 18～19

過去の議案書などは
町議会ホームページ
に掲載中



犯罪被害者等支援条例を制定 ～令和8年4月1日から施行されます～

12月2日から11日までに開催された12月会議では、条例制定および一部改正、指定管理者の指定や補正予算などを慎重に審議し、すべて原案のとおり可決しました。

条例の制定

「矢巾町犯罪被害者等支援条例」を制定する議案が可決され、令和8年4月1日から施行となります。

主な質疑

質問 被害に遭われた方への支援体制の整備は。また、施行後の評価・検証は。

回答 福祉課や総務課が主となり全課で対応するほか、県犯罪被害者支援センターなどの関係機関との連携を図り支援にあたる。

また、紫波警察署と毎月勉強会を行いながら、評価・検証を進めていく方針。

賛成討論

横澤 駿一 議員

児童生徒への支援が条項でしっかりと定められたことは意義深く、現場を意識した設計になっている点の評価する。本条例が犯罪のないまちづくりの土台となり、町民の安全安心な生活に寄与する条例になることを期待する。

条例の一部改正

手数料の改定

令和8年4月1日から矢巾町手数料条例などで定める手数料の額が変わります。窓口での住民票の写しや印鑑登録証の交付など、21件の手数料と督促手数料が、一律100円の増額となります。

施設運用の変更

通称「やまゆりハウス」として運営していた高齢者活動センターは、矢巾町国民保養センターに集約化されます。また、屋外ゲートボール場は利用者の激減などにより廃止されます。なお、屋内ゲートボール場は、今までどおり運営されます。

さらに、町営キャンプ場の使用時間を条例に明記し、宿泊利用は正午から翌日の午前10時まで、日帰り利用は午前10時から午後6時までとなります。いずれも令和8年4月1日からの施行となります。

指定管理者の指定

管理施設	指定管理者	年数
矢巾町活動交流センター	矢幅駅前開発株式会社	5年
矢巾町農村環境改善センター	株式会社寿広	3年
矢巾町都市公園	協同組合盛岡卸センター	3年

人事案件

教育委員

任期4年間
和久井 育子 さん
(新任・南矢幅3区)

補正予算

主な歳入

▽個人町民税 7,344万円
▽固定資産税 1億952万6千円
▽子どものための教育・保育給付交付金(国庫負担金) 1億6,359万8千円

主な歳出

▽デジタル基盤改革支援補助金(国庫負担金) 1億3,607万1千円
▼障がい者支援事業介護給付費・訓練等給付費 1億2,000万円
▼保育委託事業町外保育園運営業務委託料 1,161万7千円

▼認定こども園施設型給付費 2億2,461万4千円

主な質疑

質問 個人町民税増の要因は何だと認識しているか。

回答 当初少なく見積もっていた額を上回ったことや、納税義務者が増えたこと、今まで非課税だった方の所得が増加したことにより課税されたことなどが要因と捉えている。

質問 認定こども園施設型給付費は新設の施設への給付か。

回答 保育士の処遇改善に伴う給付費であり、現在運営されている園への給付となる。

各議案の採決状況

議案番号	議員名 提出議案	高橋	高橋	横澤	ササキ	吉田	藤原	齊藤	小川	木村	小笠原	山本	高橋	水本	村松	昆	赤丸	谷上	採決
		恵	敬太	駿一	マサヒロ	喜博	信悦	勝浩	文子	豊	佳子	好章	安子	淳一	信一	秀一	秀雄	知子	結果

令和7年定例会10月会議（令和7年10月8日）

議案第69号	矢巾町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可
議案第70号	令和7年度矢巾町一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可
発議案第8号	南昌みらい高校新体育館の早期建設に向けて岩手県教育委員会と矢巾町が協議を進め、合意形成することを求める意見書の提出	○	○	○	●	○	○	欠	●	●	○	○	○	欠	○	○	○	○	可

令和7年定例会11月会議（令和7年11月4日）

議案第71号	町道中村6号線道路改良工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第72号	令和7年度矢巾町一般会計補正予算（第6号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第73号	令和7年度矢巾町下水道事業会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可

令和7年定例会12月会議（令和7年12月2日～11日）

議案第74号	矢巾町犯罪被害者等支援条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第75号	矢巾町手数料条例等の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第76号	矢巾町国民保養センター設置条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第77号	矢巾町営キャンプ場の設置及び管理に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第78号	指定管理者の指定（矢巾町活動交流センター）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第79号	指定管理者の指定（矢巾町農村環境改善センター）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第80号	指定管理者の指定（矢巾町都市公園）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第81号	令和7年度矢巾町一般会計補正予算（第7号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第82号	令和7年度矢巾町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第83号	令和7年度矢巾町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第84号	令和7年度矢巾町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第85号	令和7年度矢巾町水道事業会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第86号	教育委員会の委員の任命	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	同意
議案第87号	矢巾町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第88号	矢巾町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第89号	町道矢次線道路改良その5工事請負契約の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可

○＝原案に賛成 ●＝原案に反対 欠＝欠席 可＝可決 否＝否決 退＝退席 注：廣田清実議長は採決に加わらない。

ズバリ 町政を問う

一般質問

一般質問は、議員が執行機関に対して、町政全般にわたる執行状況や将来に対する方針などの諸問題について質問を行い、町の姿勢を明らかにするものです。12月会議では議員12人による一般質問が行われ、活発な議論が展開されました。掲載の質疑内容は、質問した議員の原稿によるものです。

●^{こん} 昆 ^{しゅう いち} 秀 一 議員…………… P5

- ①精神保健施策の推進
- ②性に関する教育および支援体制等
- ③芸術文化振興策の推進

●^{むら まつ のぶ かつ} 村 松 信 一 議員…………… P6

- ①令和7年度教育行政方針について
- ②第8次総合計画の町の将来像の実現に向けた4つのまちづくりについて
- ③令和7年度施政方針における事務事業の進捗状況について

●^{お がさわら よし こ} 小笠原 佳 子 議員…………… P7

- ①GIGAスクール端末の更新と環福連携について
- ②認知症早期発見ツール、オレンジチェックシートについて
- ③クマの被害について

●^{よこ さわ しゅん いち} 横 澤 駿 一 議員…………… P8

- ①誰も取り残さない「居場所づくり」と、その人らしさを尊重するまちづくりに向けて
- ②中長期的な視点でのクマ出没対策について

●^{や がみ とも こ} 谷 上 知 子 議員…………… P9

- ①南昌みらい高校新体育館建設の経過と今後について
- ②「森林と小動物と仲間づくり」の活動で青少年との交流を作り出すことについて
- ③高齢者の社会参加が認知症対策になることについて

●^{たか はし めぐみ} 高 橋 恵 議員…………… P10

- ①環境美化条例の必要性について
- ②クマの出没と対策強化について
- ③農家支援と防除対策

●^{みず もと じゅん いち} 水 本 淳 一 議員…………… P11

- ①町の介護福祉の現状と支援策について
- ②町の農地管理の現状と支援策について

●^{たか はし やす こ} 高 橋 安 子 議員…………… P12

- ①矢幅駅舎東口の利活用について
- ②小中学校不登校および教師の休職について
- ③矢巾町国民保養センターの料金設定について

●^{さい とう かつ ひろ} 齊 藤 勝 浩 議員…………… P13

- ①内部統制の導入について
- ②「未来カルテ」から考える矢巾町の未来予想図について

●^{あか まる ひで お} 赤 丸 秀 雄 議員…………… P14

- ①小中学校児童生徒の不登校およびいじめ事象の現状について
- ②クマ対策と町民への注意喚起について
- ③町内公共交通運用の利便性改善について

●^{お がわ ふみ こ} 小 川 文 子 議員…………… P15

- ①介護事業を進めるために
- ②町内養豚事業者の事業休止について

●^{たか はし けい た} 高 橋 敬 太 議員…………… P16

- ①主体的にまちづくりに関わる能動的な人材育成において大切なことは
- ②行政評価および証拠に基づく政策立案に対する考えは

一般質問通告書は、矢巾町議会ホームページに掲載しています。





こん しゅういち
昆 秀一 議員
(新誠会)

動画は
こちら ▶



精神保健施策のさらなる強化を 心の健康を支える体制を強化

質問 誰もが心の不調を抱える可能性がある現代社会。精神保健に関する課題は見えにくく、声にならない声が埋もれがちである。

相談窓口の連携、支援者養成、家族支援の充実、偏見解消の取り組みなど多々ある支援を強化する必要があると感じるが、町の見解は。

町長 相談内容によって専門的な精神保健としての支援が必要な場合、関係機関が連携し早期対応に努めている。

また、心のサポーター養成講座やゲートキーパー養成講座などの支援者研修や啓発活動も継続している。

今後も「相談しやすい環境づくり」を進め、町民の心の健康を支える体制を強化する。

子どもを守り育む性教育充実を

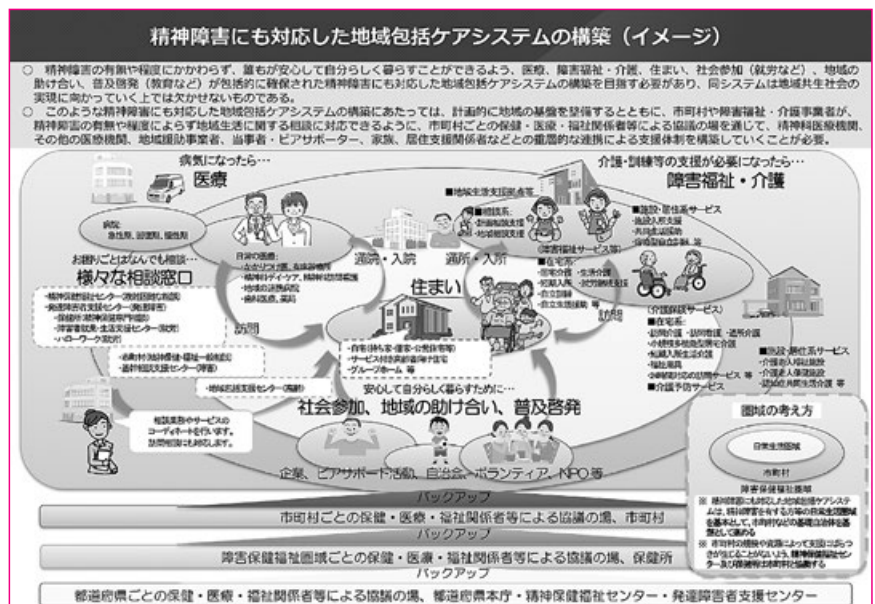
性に関する教育と相談体制を充実

質問 性に関する教育と支援は、人が自分らしく生きるための基礎となる重要なテーマ

である。

性被害防止や多様性理解、ネット上の性情報への対応、相談窓口の整備、保護者支援など、性教育と支援体制のあり方を問う。

教育長 学校では発達段階に応じた指導を行い、外部講師による専門的な学習も実施し



厚生労働省ホームページより

文化の力を未来につなぐには文化が身近に感じられる環境をつくる

質問 芸術文化は、人々の心に潤いと誇りをもたらし、地域の魅力を高め、世代を超えて人と人をつなぐ力がある。

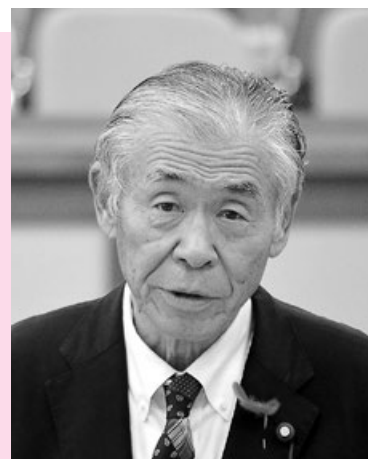
文化団体支援、担い手不足、子どもの文化体験、文化による地域活性化、施設活用など、多面的な視点から町の文化政策を問う。

教育長 補助制度の活用や学校との連携を図りつつ、鑑賞体験やワークショップなどを継続している。

文化イベントの検討や施設活用も進め、「文化を身近に感じられる環境づくり」を推進していく。

また、相談体制や保護者向け講座も整備されている。今後も子どもと家庭を支える取り組みを充実させていく方針である。

コミュニティスクールの状況は 5者連携で教育課題を「熟議」



むらまつ のぶかつ
村松 信一 議員
(矢巾未来の会)

一般質問 町政を問う

動画は
こちら ▶



キャリア教育の実績は。

教育長 社会で働く意義や将来になりたい職業について理解を深めるため、町内事業所などにおいて職場体験学習を実施している。

質問 発達障がいや不登校に対する適応支援・特別支援の状況は。

教育長 適応支援員7名、特別支援教育支援員10名を配置し、きめ細かな指導・支援に努めている。

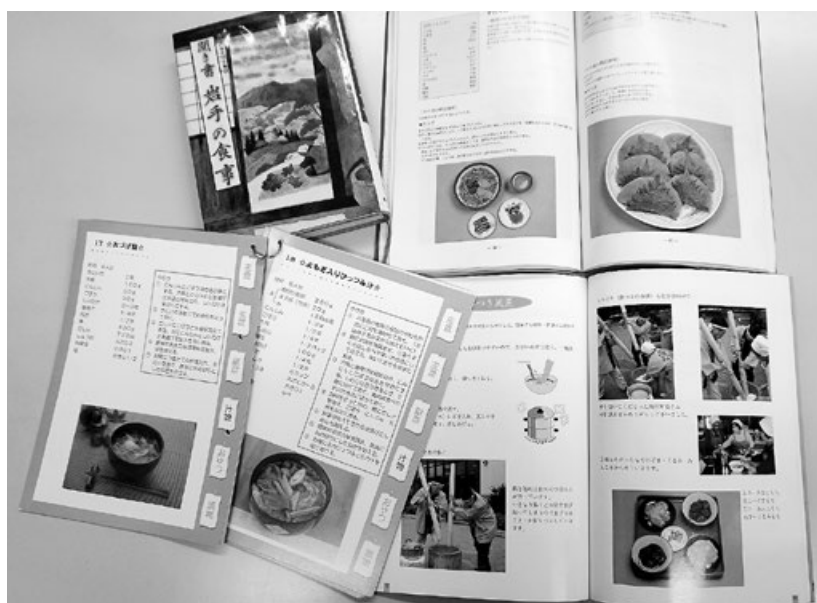
まちの将来像は

4つのまちづくり
を目指して推進

質問 特産品の開発状況は。

町長 町内の農産物を使用した特産品づくりに取り組み、秋まつりでは試食会を開催。

質問 本町には昭和時代の食べ物をもとめた郷土誌があるが、特産品開発のヒントになると思われる。参考にしてはどうか。



6次産業の可能性を秘めた矢巾町の昭和の料理冊子

町長 郷土食として発刊されており、今後の参考としたい。

質問 労働者協同組合の実現に向けた取り組みは。

町長 設立に関して町に協議などがあった場合は、前向きに取り組む。

質問 本町でしか手に入らないものは。

町長 いもの・体験できないものは、形成されている国指定史跡徳丹城の歴史的景観、岩手医大附属病院、矢幅駅周辺の都市的景観、西部地区の自然景観など、一度にすべて触れられる環境そのものが、本町でしか手に入らないものと捉えている。

GIGAスクール端末の更新は 令和8年度にリースで更新

質問 児童生徒1人1台端末は2020年度に導入され、耐用年数やWindows10サポート終了に伴い更新が必要であるが、時期と台数は。また、共同調達の見通しや処分委託、データ消去の安全性についてどうお考えか。

教育長 令和8年度に、児童生徒用2,356台、教員用200台をリースで更新予定。共同調達は、複数事業者による参加が可能で支障は少ないと考える。

情報漏洩事例は遺憾であり、適正処理が可能な事業者を吟味し委託する予定。環境省通知に基づき、町民環境課と連携し認定事業者へ委託する方針である。



おがさわら よしこ
小笠原 佳子 議員
(公明党)

動画は
こちら



質問 再資源化に際して、環境・福祉との連携や障がい者施設との協働の考えは。

町長 県内には6事業者があり、社会福祉法人新生会では資源ごみ分別実証事業を進めている。再資源化を障がい者就労支援と連携することについては今後検討する。

認知症の 早期発見は

チエックシートの 導入を検討

質問 認知症の早期発見は重要であり、明石市の事例を参考に当町での事業や導入の可能性、血液検査による早期診断研究について伺う。

町長 機能評価や※認知症コホート研究に参加し軽度認知障害の検査を実施している。チエックシートの導入は、今後検討していく。

血液検査による診断は、研究段階であるが岩手医科大学などと連携し、国の施策を注視しながら進めていく。

クマ被害対策 町の対応は

出没時の対応は マニュアルを整備

質問 出沒増加に伴う農作物被害や猟友会への補助金、ハンター補償、後継者育成など、町の対応について伺う。

町長 農作物被害はリンゴなど

どに及ぶ。猟友会には年額35万円を支出し、狩猟活動は保険で補償されている。隊員の平均年齢は63歳で、令和4年度以降は5名の新規狩猟者を確保。

町ではクマの出没時対応マニュアルを整備。政府の対策パッケージや交付金を活用し、町民の安全確保に努める。

クマ被害対策を！



人とクマがともに生きる道を

子どもホスピス設置に向けて さまざまな場で発信を行う



よこさわ しゅんいち
横澤 駿一 議員
(不来方)

動画は
こちら ▶



一般質問 町政を問う

質問 公益性の高い支援拠点

町長 町立として設置の予定はないが、町内に設置の際は、重い病気があったとしても子どもたちが遊びや学びなどの体験ができるよう、「子どもホスピス」を利用する親子と、地域の子どもたちとの、交流機会の確保を検討していく。

質問 岩手県内で「子どもホスピス」の立ち上げに取り組む団体がある。本町には医療資源が集中し、北東北から医療を求めて来町する子ども・家族もいる。病気があっても「その子らしく生きられる時間」を地域と共に「演出」していくことが、本町にできる大きな役割だと考えるが、ホスピス設置の可能性について、町の見解を伺う。

(例：ファミリーハウス、子どもホスピス、子ども第三の居場所など)を構想する際、遊休町有地などの公共資産を活用すべきと思うがどうか。

町長 現在、予定はないが、新たな支援拠点の整備にあたり、その機能を最大限に発揮するためには、既存の町立施設の活用および連携が必要と考えている。



日本初のコミュニティ型子どもホスピス
「TSURUMI こどもホスピス」(大阪市鶴見区)

**ハート(心)の
官民連携を
支援チームづくり
を目標にする**

質問 誰も取り残さない居場所づくりに向けて「人がつながる土壌」を耕す必要があると考える。

町として、支援をつなぐ人

町長 里山の荒廃も出沒の要因のひとつ。多面的機能支払交付金の活用を支援し、地域と連携し緩衝地帯の整備や捕獲体制の強化に取り組む。

**中長期的な
クマ出没対策を
緩衝地帯整備に
かかる支援を要望**

質問 短期的には捕獲が重要だが、中長期的には、里山も含めた、緩衝地帯の整備などの対策も必要では。

材の配置や、官民問わず、多様な主体が出会い、協働できる場づくり「ハートの官民連携」が重要ではないか。

町長 まずは、中間支援を担う団体や多様な取り組みを行っている地域活動団体、岩手医科大学の学生、地域課題の解決に取り組んでいる団体などとの意見交換を行いながら、最終的にはチームのような体制づくりを目指したい。



やがみともこ
谷上 知子 議員
(矢巾未来の会)

動画は
こちら



南昌みらい高校体育館建設を 県教委の賢明な判断を希望

質問 共創プロジェクトの現状認識を伺う。

町長 共創プロジェクト検討委員会を開催し、覚書を締結した。詳細事項は後日協議し定めることと規定していた。

共創プロジェクトは県教育委員会と矢巾町が屋内運動場を共創で整備し、教育施設と町民の運動施設として、双方の利活用を想定していたもの。具体的事項の手続きの協議がないまま現在に至っている。

質問 今後の南昌みらい高校の体育館建設に向けた矢巾町の考えは。

町長 南昌みらい高校を学ぶ舎にしている生徒のため、町民のため、たびたび調整してきた。県教育委員会に対し誠実な対応と賢明な判断を希望。

森林と小動物と 仲間づくり

優れた提案である

質問 森林活動で得られる癒し効果は。

教育長 森林空間に入ると多様な緑色、鳥の声や沢水の流れ、空気のおいしさ、時間の流れや穏やかさなど人間の生



認知症サポーター養成講座（高田1区）

体リズムが自然に同調する。

森林浴効果は、※フィトンチットの存在やメデイカルデータを重ね森林セラピーともいわれる。森林セラピー空間を設け、経済効果を上げている町村もあると聞く。

質問 動物とのふれあいや自然体験が自己肯定感を育むことへの認識は。

教育長 小動物とふれあうことは、自分より弱いものや小さいものを守ることと自分がないと安心安全は保てないと言ふ意識を強く持ち、自己肯定感を育むことができる。

自然体験時の、草花や生態系の全体システムを理解するときも同様で、自分以外のものへのやさしさや暖かさ、思いやり、第三者的な視点や客観性の認識を獲得できると考える。青少年の健全育成には重要で有用な方法である。

社会参加で 認知症対策を

地域の居場所事業
を支援

質問 社会活動に参加できるための高齢者への支援は。

町長 社会参加は孤独感の緩和や生きがいの創出につながるため、地域の支援者などと連携し、社会参加ができるように訪問や声掛けなどを継続していく。

フィトンチット…樹木が自衛のために発散する揮発性の化学物質の総称で、人間には森林の心地よい香りとりラックス効果をもたらす。

クマ出没把握と対応強化は 即時把握し迅速に対応



たかはし めぐみ
高橋 恵 議員
(町民の会)

動画は
こちら ▶



一般質問 町政を問う

質問 クマの出没件数や被害状況の把握方法、対応体制強化、隣接自治体や県との連携強化について、今後の方針は。

町長 クマの出没情報は通報や職員確認で把握、地図化して箱根設置や事前対策に活用。市町境情報は盛岡市や紫波町と共有し、県の助言を得て対策を進めている。

質問 管理人不明の放任果樹（柿など）がクマ誘因の一つとなっているが、伐採や管理を進める対策を講じる考えは。

町長 放任果樹は所有者の責任で管理すべきであり、クマの餌場だからといって伐採は考えていない。今後も所有者の特定と適切な管理を促し、餌場対策を検討する。

質問 クマが居住地域を「餌が得やすい環境」と認識しているため、刺激臭を使った対策が有効とされているが、町として検討している具体的な取り組みは。

町長 これまで光や音、にんにくの刺激臭を使った対策を行ったが効果が続かないため、今後は緩衝帯の整備を進め、移動式簡易電気柵の設置を検討している。

**環境美化条例の
必要性は**

**現時点で条例制定
は考えていない**

質問 ポイ捨て・不法投棄防止のため「矢巾町環境美化条例（仮称）」の制定を、法的枠組みと町民参加の両面で推進すべきと考えるが、条例制定の必要性をどう考えているか。

町長 現状、廃棄物処理法に基づき、警察と連携して対応。法律に規制や罰則が含まれているため、現時点で条例制定は考えていない。



道路脇に散乱するごみ対策の強化が必要

アメリカシロヒトリの果樹被害

**病害虫防除で
ほぼ被害なし**

質問 アメリカシロヒトリによる果樹や街路樹への被害に

対し、果樹農家や自治会への経済的支援は。

町長 果樹農家には収入保険制度への加入支援を行っている。街路樹の被害については、パトロールや自治会からの連絡で、専門業者による薬剤散布や剪定を実施している。



みずもと じゅんいち
水本 淳一 議員
(町民の会)

動画は
こちら ▶



雑草だらけの空き地の管理は 状況を所有者に情報提供

質問 農業エリアの空き家・空き地に雑草や雑木が生い茂るなど、手入れの届かない土地が見られる。誰が草刈りを。

町長 町による管理はできないため、周辺環境への影響に関する相談があった場合には職員が現地の状況を確認のうえ、所有者に情報提供を行っている。

質問 河川の害虫防除は、管理者側が農業用ドローンを活用した効率的な実施を。

町長 次年度事業として、ドローン用薬剤にも対応できるよう計画している。

質問 乗用機械による草刈り作業などの安全確保のため、河川の危険箇所改修の考えは。

町長 事前に河川などの管理者と協議のうえ対応していく。

質問 町外に所有する農地を基盤整備事業の対象にする場合の申請方法は。

町長 農地所在の自治体に申請するほか、町内の農地を含め一体で本町に申請することも可能。また、令和7年度より農業担い手応援事業に耕作条件改善枠を設けている。



高齢者などが地域で安心して暮らせるよう
医療・介護・福祉・保育など15事業を展開

介護福祉の現状 と支援策は

増加する介護の負担軽減に努める

質問 本町の要介護(要支援)認定者数は。

町長 令和7年度9月末時点で前年同月より1・8%増え、1,309名となっている。

質問 本町の老々介護、超老々介護の実態は。

町長 具体的数値の把握はないが、全国同様に増加傾向。

質問 障がいのある子を持つ保護者の最大の悩みに関し、現状の把握と支援策は。

町長 「親なき後」にどうなるのか」が最大の心配事。

今後、成年後見制度などについてわかりやすい情報発信を心掛け、啓発に努める。

質問 高齢者の所持する医療保険、介護保険に係る証書の種類が多く、その家族にとっても管理が大変である。

手続き方法や証書類の一元化など、簡略化できないか。

町長 マイナ保険証の利用により、限度額認定の事前申請や医療機関での提示が不要になるなど、手続きが簡素化された。

また、介護保険被保険者証のマイナンバーカードによる資格確認なども検討中。

矢幅駅舎東口の有効利用を 明るく活気のある玄関口に



たかはし やすこ
高橋 安子 議員
(町民の会)

動画は
こちら ▶



一般質問 町政を問う

ジショップなど貸しスペースとしても考えたい。

質問 本町の就労支援施設では野菜やフッキーなどを製造販売している。その販売や地元団体などに呼びかけて、弁当などを日替わりで販売するなどの、常に人が集まる賑わいのある場所にしてはどうか。

また本町は「音楽のまち」であり、全国的に活躍する小

中高校生の演奏を、待合室を含めてモニターで上映しては。

町長 交流人口がますます増加するなか、まちの玄関口が暗いのは悲しいことだと思う。今の意見を含めて、できるだけ早く職員一丸となって対策を考え、検討したい。

不登校および教師の休職状況は

小・中合わせ83名
教師は3名

質問 全国的に不登校の小中高校生が増加しているが、本町ではどうか。

教育長 令和6年度で、小中合わせて83名の不登校があり、全国と同じ傾向。原因は、生活や人間関係のストレスと思われる。

教員の長期休暇は3名で、学級運営や保護者対応などの悩みによる。

質問 どのような対策を取っているか。

教育長 児童生徒は、状況に応じてカウンセリングを実施。教師は、業務分担の見直しなどで負担を軽減している。

質問 令和2年にコミュニティスクールを立ち上げたが、今こそ地域一体で取り組むときでは。

教育長 学校の地域化、地域の学校化を目指し、保護者や地域で子どもたちや学校を指導していきたい。



利用人口増が見込まれる矢幅駅舎の有効利用を



さいとう かつひろ
齊藤 勝浩 議員
(矢巾未来の会)

動画は
こちら



内部統制導入への取り組みは 導入検討前に意識の醸成を図る

質問 監査委員からの令和6年度決算審査結果では、事務執行の不適切事項の報告があった。

指摘内容と対処方法は。

町長 補助金の支出手続き不備など数事の指摘を受けた。職員間の情報共有を徹底し、指摘に対する措置を講ずることと適切な執行に努める。

質問 業務運営では、車検切れ公用車運行、農業委員会での不適切事務処理があった。業務リスクの洗い出しと改善策、今後の運用方針は。

町長 共通スケジュール利用や使用時の掲示方法の改善策を用いて対応。

また、職員間の相互確認体制強化を図り、法令順守の徹底を指示した。

質問 内部統制は、住民福祉の増進を図る目的達成のため、自治体が組織を健全に運用し業務を効率的に遂行するための仕組みだ。町は制度導入努力義務の自治体ではあるものの、近年の不祥事発生による町民からの不信任は否めない。リスク管理やガバナンス強化を図り、町民の信頼を確保するために、内部統制導入が必要と考えるがどうか。

町長 他の自治体においても、内部統制を執り進めていても、不正や指摘事項が減少しているわけではないようである。まずは職員の意識を律し職務にあたらせる。

質問 盛岡南道路の整備確定は、更なる広域圏のアクセス向上による交流人口増が期待される。重点的取り組みは。

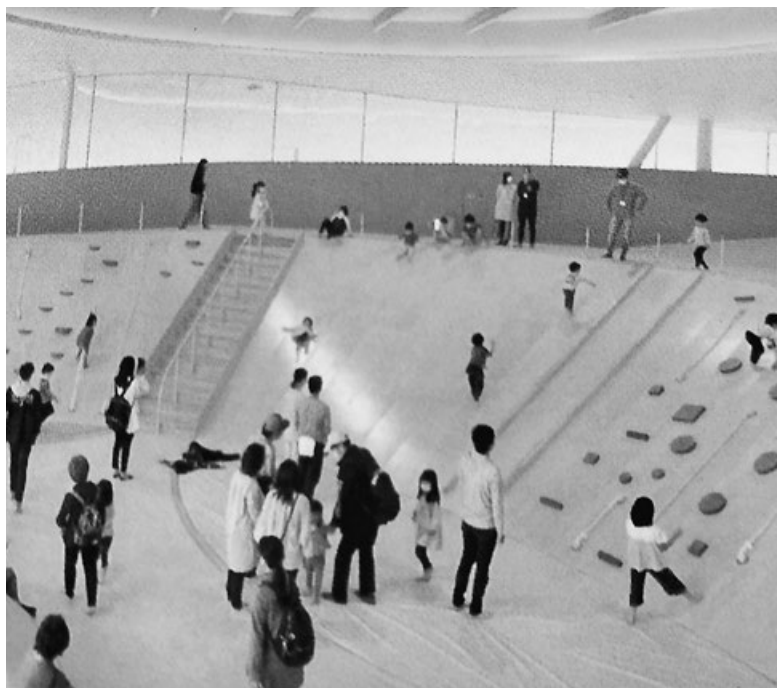
町長 盛岡南道路は岩手医大

未来カルテを基に対策を

地域課題ダッシュボードβ版を分析

質問 盛岡南道路の整備確定は、更なる広域圏のアクセス向上による交流人口増が期待される。重点的取り組みは。

町長 盛岡南道路は岩手医大



子どもがのびのび遊べる遊戯施設を
(山形市南部児童遊戯施設「シェルターコパル」)

の命の道としての役割を担い、町全体への活力向上、経済波及効果は大きな要素と考えている。

若者に選ばれるまちづくり

各教育機関連携で教育環境の研究を

質問 町民が高く興味を示している子育て施策の制度充実には評価できるが、昨今の環境変化に対応した児童遊戯施設などの整備が急務では。

町長 親が安全・安心な子育てを行うため、ライフステージに応じた支援を行っている。子育て環境の充実についても研究を進める。

不登校生の相談体制強化を きめ細やかな対応に努める



あかまる ひでお
赤丸 秀雄 議員
(新誠会)

動画は
こちら ▶



一般質問 町政を問う

質問 文部科学省から24年度不登校生の数が発表され、12年連続増加となる。県内は5年連続増加であったが当町の状況はどうか。

教育長 当町も3年連続で増加傾向である。昨年度は小学校で32名、中学校は51名であった。

不登校要因は

原因は多岐に渡る

質問 不登校要因の把握と相談体制の強化が必要と考えるが、どのような対応を行っているか。

また、私は家庭と学校でのコミュニケーション不足が第一義と考え、相談員の増加を望むがどうか。



児童・生徒がなごやかに
上級生も下級生も一緒になって活動する学校をいつまでも

教育長

不登校要因として小学校では「学校生活にやる気が出ない」中学生は「不安・抑うつ」となっているが、原因を一つに特定することは困難で多岐に渡ると踏まえる。相談体制は町内のカウンセラーを必要に応じて弾力運用し、県にも依頼して相談支援強化を図っている。

**クマ出没時の
連絡体制強化を**

早期周知に努める

質問 クマ出没時の町民への周知が遅いと言われている。

早期に連絡が取れる体制への改善を望むが。

町長 出沒初期時の反省を踏

まえ連絡体制を見直した。

また、クマ出没対策のマニュアルを策定したことから、今後は町民の方々が安心できる情報提供ができると踏まえている。

質問 クマ捕獲、その措置など多大な労力を費やすと言われている。

1回の出動手当が安すぎることは、県内のみならず国内で話題となっているが、どう考えるか。

町長 町や郡の猟友会の環境、県市町村の状況を踏まえ、適切な対応に努めたい。

**乗り合い型バス
運行改善を**

利便性向上を検討

質問 昨年度の利用者1,260人は延べ人数であり、実利用者52人は少ない。利用者増には運行改善が必要では。

町長 町内移動の利便性向上には、何が必要か検討したい。



おがわ ふみ こ
小川 文子 議員
(日本共産党矢巾町議団)

動画は
こちら ▶



町内養豚業者の事業状況は 今後も事業者と情報共有したい

質問 町内徳田地区の養豚業者が地域住民に今後の事業についての説明をした。貴重な養豚業である一方、悪臭の問題が長年の懸案事項であった。現在の状況や今後の方向性を伺っているか。

町長 事業者の状況把握に努めている。必要に応じた支援の備えはしているが、特定の民間企業の場合、今後の方向性を町が回答する立場にない。

質問 産業・経済への影響は。

町長 8月の事業者による説明では事業規模を徐々に縮小している旨の説明があったが、経済への影響の把握は難しい。

質問 悪臭問題の見通しを町が主導して、町民・岩手医科大学などに説明が必要では。

また、隣接する盛岡市乙部地区や紫波町の方々からも悪臭に悩まされていたという声を聞いているが。

町長 説明会開催の必要性などについて事業者との相談は行っている。今後も事業者と開催回数などの調整や情報共有を行いたい。

介護事業を進めるために

国や県に 処遇改善を要望

質問 訪問介護の基本報酬が2〜3%引き下げられたことが大きく影響し、事業所の倒産・休廃業の増加が報道されている。町内では一カ所の廃止による利用者への影響は。

町長 令和7年4月末で廃止された事業所はあるが、入居者は別の有料老人ホームへ転居。在宅での利用者は他の事業所へ切り換えとなり、影響はないものと捉えている。

質問 包括支援センターとの

連携状況は。

町長 地域包括支援センター主催の合同連絡会を年6回開催。情報共有や研修会などを通して実践力の向上を図るとともに連携強化に取り組む。個別ケースについては地域ケア会議などを通じて関係機関、支援者が連携して支援を行っている。

質問 町内事業所運営状況は。

町長 昨年8月に状況を伺った際、約7割の事業者が報酬

引き下げの影響はあるものの介護報酬に係る特定事業所加算の取得などにより対応しているとの回答を得ている。

質問 町内介護事業所は充足しているか。

また、介護事業所の維持・確保に向けた町の取り組みは。

町長 正確に把握することは困難であるが、ある程度充足している状況と捉えている。介護従事者の処遇改善などは国や県に要望している。



人気のロボット※「りんごさん」と、なごやかに
(やはばえんじょいセンター内で活躍中、こども園などに出張)

ロボット…認知症ケアのための技術が内包されているロボット。

人財育成で大切なことは 誇りと使命感を醸成すること



駅スペースを交流の場などに有効活用を(現状月1回のイベント開催)



たかはし けい た
高橋 敬太 議員
(不来方)

動画は
こちら ▶



一般質問 町政を問う

質問 町民が矢巾町に誇りを
もつと、自然と町のために行

動をしてくれる。そのためには、まず町職員が町や仕事に自信と誇り、そして使命感を持って働き、町民と接すること、その熱意が町民に伝わっていくものと考えるが、そのように育成する考えは。

町長 自ら考えて主体的に働く職員の育成のため、上司は町職員の使命を理解し、リー

ダーシップを発揮しながら、部下の創意工夫や自主性を尊重し、誇りと使命感を醸成するように取り組んでいる。

質問 方針だけでなく指標を定め、数値で評価できるようにする必要がありますのでは。

町長 これから具体的な指標を設けて、客観的に評価できるようにしたい。

質問 町民は矢巾町のどのようなところに誇りを感じていると思うのか。

町長 医療、福祉施設が充実していることが挙げられる。

質問 学生が多いことも強みである。駅の活動スペースを交流の場として、仲間づくりと地域活性の拠点としては。

町長 選抜肢のひとつとして考えている。

行政の評価は

新たな手法を検討

質問 行政評価スキルの向上はどのように行われているか。

町長 令和5年、令和6年はできていない。

質問 今後の※事務事業評価シートを用いた評価は。

町長 予算要求時に使用している事業概要書を用いて実施したい。

質問 それでは課題と改善の検証が不十分である。今年度をしっかりと評価し、次年度へ引き継ぐことでより良い形で毎年事業内容がブラッシュアップされるのではないか。

町長 課題があるのは認識している。お金の使われ方は一番大切。これを契機に令和8年度からの体制整備も含めてしっかり構築していきたい。

質問 町のアプリである「やはナビ!」について費用対効果を具体的な数値で検証する必要があるのではないか。

町長 各機能の詳細なデータ集計はできないが、有効性を根拠に基づいて評価したい。



ちだ きいち
千田 喜一 さん（南矢幅6区）

―傍聴のきっかけは。―
知り合いの議員から「議会傍聴も面白いよ」とお誘いをいただき、参りました。

―傍聴してみて、率直な感想をお聞かせください。―
大きな視点に立った内部

統制の提案や不登校の状況など、個別の問題にも踏み込み、町内の多岐にわたる内容について議論しているのだなと思いました。また、答弁の内容も詳細で、町職員の苦勞も感じました。

―関心を持った部分は。―
ちょっと前の情報で矢巾町の人口は増えていると思

い込んでいましたが減少しているとのこと。こんな中での対策として、安心して子育てできる環境整備が重要だと思いました。

―議員の仕事について思うことはありますか。―
正直、議員の仕事を把握

していませんでしたが、地域の皆さんの意見を聞いて町政運営に反映しているのだなと思いました。

―最後に一言お願いします。―
今後も町政運営について

の活発な議論を期待しています。

議員の資質向上 AI研修実施



令和7年12月24日、矢巾町政調査会の研修事業として、議員の資質向上を目的とした「AI研修」を実施しました。
矢巾町議会アドバイザーの佐藤 淳教授（青森大学）を講師に迎え、チャットGPTなどの使い方について見識を深めました。

研修を通じて

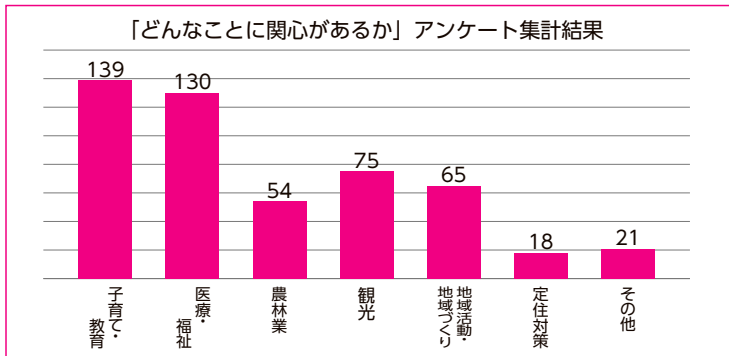
横澤 駿一 議員

今回の研修では、これからの時代に欠かせないAI活用について学びました。

社会の変化が急速に進む中で、議会としてその流れに取り残されないためにも、AIも一つのツールとして活用し、政策提言のスピードと質を高めていくことが重要だと感じました。

意見集約や会議記録、情報収集など実践的な学びを得ることができ、町民の皆様と共に歩む、より開かれた議会につながっていききたいと強く感じています。

町民と共に考える



令和7年10月18日から19日に開催された矢巾町秋まつりにて、町の未来を来場者と語り合うため、議会のブースを設け、矢巾町議員が来場者に「どんなことに興味があるか」アンケートを行うとともに、町民と町のことについて話しました。

議員と話そう

多くの「意見と熱意に感謝」

熱意に感謝

議会のあり方調査検討特別委員会 委員長 谷上知子

「議員と話そう」にご協力いただき深く御礼申し上げます。矢巾町議会初の取り組みでした。議員と向き合い熱く話す女性、ボランティア活動の紹介や相談をする学生、観光産業や農業政策を訴える男性。生活環境の問題点を知らせてくださった若手のご家族。多くの意見が熱く語られました。予想を超えた参加者の興味関心のコーナー。共感や笑いにあふれたひとときの「議員と話そう」でした。今後皆様と共に語り、矢巾の明るい未来を目指します。



わたしの関心事は？



議会フォーラム開催

令和7年12月13日「町民と語る議会フォーラム」を開催し、議会活動や議会改革の方向性を説明・報告しました。また、矢巾町議会アドバイザーの佐藤淳教授(青森大学)を講師にお迎えし、*ワール



見学の方も含め60人弱の方にお集まりいただきました

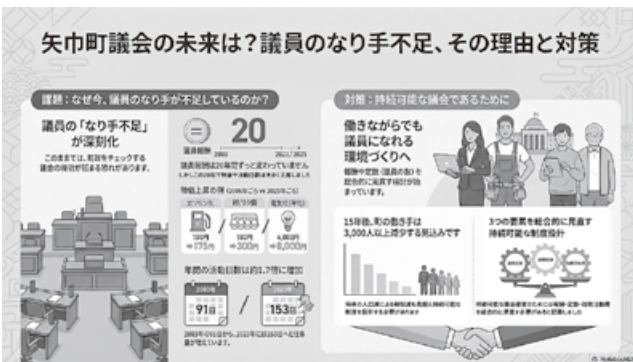
ドカフェ方式で参加者との意見交換会を行いました。私たち矢巾町議会は、町民が議会に対して抱く疑問や期待などを直接伺い、双方の対話による開かれた議会を目指しています。本フォーラムは、町民の声をお聴きできる貴重な機会となりました。

議会のあり方を

議員定数・報酬

第1部では、主に議会のあり方調査検討特別委員会の活動の要である「議員定数・議員報酬」について、変遷や現在の検討内容を、分科会長の齊藤勝浩議員から説明と報告を行いました。

私たちは社会情勢や町財政を勘案し、議員報酬額の引き上げを見込んでいますが、町民の皆様にとっては次のようなご意見などもあることを認識しました。



これらは今後の活動において当然考慮していきます。

今後の進め方

今回のフォーラムでいただいた皆様のご意見を参考に、

参加者からのご意見など（一部）

○報酬について

- ・「上げてよい、見直すべき」が多数。
- ・現状は安すぎる。20年間見直しがないのは問題。
- ・しっかり仕事をした人にはきちんと支払って欲しい。
- ・上げるにしても、適正水準を検討すべき。
- ・成果や活動に見合う説明や仕組みを求める。
- ・予算の範囲内でやりくりし、増額を。

○定数について

- ・町民の声を少しでも多く聞き届けるためにも、減らすべきではない。
- ・町民の声を拾い上げるためなら、むしろ増やすべき。

○その他

- ・報酬を上げるために定数を減らすことには反対。目的が違つ。
- ・人口規模、仕事量、役割から適正数を考えるべき。
- ・議会のあり方について
- ・開かれた議会として、対話の場の継続を望む。
- ・議会活動や議会の仕事を分かりやすく。（見える化）
- ・町民の代弁者として、自ら町民の声を拾って欲しい。

- ・議会フォーラムの継続開催を望む。



特別委員会で十分に検討を重ね調整を行います。また、皆様に検討結果を報告し、令和8年9月議会で特別委員会報告、12月に条例改正案を議会に提出する方向で進めます。

佐藤教授の講評

リラックスした雰囲気であり合うワールドカフェ方式により、会場は次第に熱気に包まれ、町民と議員の垣根を越えた対話が実現しました。

特に20年間据え置かれていた議員報酬や定数について、参加者から「活動が見えるなら報酬増も必要」「多様な世代が参加できる環境を」といった、議会の未来を想う建設的なご意見が多く寄せられたことが印象的でした。これらは深刻な「なり手不足」を解消し、持続可能な議会を作るための極めて重要な視点です。

今回の改革は議員のためではなく、町民の声を町政に届ける機能を守るためのものです。会場で共有された生の声と熱意は、必ずや改革の確かな指針となるでしょう。

この対話を力に変え、矢巾町議会が新たな一歩を踏み出すことを心から期待します。

まの 人



クマ駆除要請に応じて集まった猟友会員

矢巾町猟友会

事務局長 ^た田 ^{むら}村 ^{みち}倫 ^こ子 さん (南昌)

クマも安心して 暮らせる森を未来へ

私は猟友会事務局長として、クマをはじめとする有害鳥獣対策に携わっています。普段はシルバー人材センターの職員として働きながら、クマの捕獲要請があれば、猟友会員の手配を行い、必要に応じて自らも現場に向かいます。猟友会員は皆、それぞれ本業を持つ町民です。急な要請に応じ活動できるのは、地域の安全を守ろうとする利他の心と、理解を示し送り出してくれる職場の支えがあるからです。

私は矢巾町をLINEで友だち登録し、クマの出没情報を随時受け取っていますが、正確で迅速な情報は大変心強いものです。町担当課では、寄せられる出没情報に昼夜を問わず対応されており、そのご苦労を肌で感じています。配属された課で一から鳥獣被害対策を学び、警察や猟友会の間に立って奔走する姿に、頭が下がる思いです。町民、警察、猟友会の間で揺れながらも、町民の安全安心のために尽力いただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年のクマの行動は例年と異なり、臆病なはずのクマが人を恐れず、住宅地まで降りてきています。被害を防ぐには、捕獲だけでなく、生態を知り、誘因となる果実や生ごみを放置しないなど、日々の心がけが欠かせません。一方で、クマとの共生に限界があり令和7年のような異常が新たな日常になる可能性が高く、過度な不安や分断を生まないよう冷静に向き合うことも大切だと感じています。

なぜクマが人里に現れるのか、その原因を皆で考え、取り除き、クマが山で安心して暮らせる環境を整える。そのための話し合いを、町全体で進めていければと思います。

あ と が き

議会として初めてとなる議会フォーラムを開催しました。報酬や定数の議論はもとより町民に開かれた議会を目指す議会改革の歩みが、少しずつ形になってきたと実感しています。これからも町民の皆様と対話を重ねながら、矢巾町の未来づくりに歩んでまいります。

編集委員 横澤 駿一

お詫びと訂正

やはば議会だより234号24ページで、所属職位に誤りがございました。

「矢巾わんわんパトロール隊員」ではなく「矢巾わんわんパトロール隊」でした。

謹んでお詫びし、訂正を申し上げます。

発行・編集責任者

編集委員

議長 廣田 清実

委員長 藤原 信悦

副委員長 山本 好章

委員 横澤 駿一

齊藤 勝浩

木村 豊